

'91

No.244号

1月号

# 迎春

## 豊漁

## 祈願



# 年頭の「あいさつ」

町 長

相 澤 二三男



町民の皆様明けましておめでとございます。

輝かしい新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、平素から町政執行につきまして深いご理解とご協力を賜り、この機会に改めて厚く御礼を申し上げますと共に、本年も尚一層のご支援とご協力をお願いする次第であります。

願いますと、昨年は国の内外を通じて、誠に多事多難な年でありました。こうした中にあっても、鹿部町では、健全財政を堅持しつつ、より効果的諸施策を積極的に推進してきたところであります。

さて、昨年における町政の

歩みを少しく申し上げたいと思います。まず、漁業振興においては、生産の基盤である鹿部・本別両漁港及び本別漁港出来潤分区も整備が着実に進んでおります。更には鹿部町の漁業生産に大きな影響があります天然昆布、スケトウタラ漁業の生産が極めて不安定な現況にあることから、漁家経営安定が急務であると考え、漁業の生産安定を図る目的から鹿部町地先海域における海底地形や底質分布、海域における魚類、藻類の生息、分布状態を漁業協同組合と共同して調査し、漁業者のより効果的な漁場の活用に利用できるよう、漁場基本図作成事業を進めました。また、例年実施しております投石事業を始め並型魚礁、雑草駆除等の事業と併せより一層の漁場改良に努めて参りました。

次に、鹿部コミュニティ・プールは昨年八月にオープンし、三カ月の間に一万六千人以上の方々にご利用いただきましたことは誠にうれしい限りです。プール建設は鹿部

町のふるさと創生事業実施について住民アンケートをとった中において極めて要望の強かった事業のひとつであり、ご利用いただいた町民の健康増進にお役に立つことができたとをうれしく存じます。また、今年も六月に閉館予定ですので昨年以上にご利用いただきたいと思えます。これと併せて町民の潤いの場である鹿部公園も家族とのふれあいの場として多いにご利用されることを期待しております。

## 21世紀に向けた地域発展を目指す

建設関係では、鹿部海岸線の改良等、その他生活道路を整備して参りました。

ここで平成三年度を展望するとき、国、地方を問わず財政事情の厳しいことは変わりなく、その反面社会情勢の変化に伴い、行政に対するニーズは、更に増大し、かつ複雑多様化してくるものと予想さ

れます。北海道においては、「北海道新長期総合計画」がスタートして四年目を迎えます。渡島管内においては、「第三次渡島広域市町村圏振興計画」が策定され、二十一世紀に向けた総合的発展計画が着々と進められ、当町としても、行政の基本である住民生活の向上と地域発展を図るため、財政の健全化を図りつつも、新しい時代に即した施策を進めていかなければならないと考えております。

平成三年度の町政の具体的な内容については、後日施政方針等で明示致したいと存じますが、依然として厳しい財政状況を踏まえながら、町の発展と活性化を図るため、旧飛行場用地に関連するトヨタ自動車機の航空機事業の企業誘致と町営住宅建設が新年度における大きな課題として取り組みを進めて行かなければならないと存じています。何れにしても基幹産業である漁業振興につきましては、漁業協同組合とより一層連携を密にすると共に町議会議員を始め町内各種諸機関の意見を充分に尊重し教育関係や福祉関係それに環境整備・観光産業等に

町民皆様の相互理解の上に立つと共に協調性を失わず今日の鹿部町を築いていただいた先人諸氏の不屈の精神とたゆまぬ努力を一時たりとも忘れる事なく協力し合うことが町発展につながるものと信じております。

一九九一年 元旦

町 長 相 澤 二三男

助 役 浜 村 正 夫

収 入 役 盛 田 栄 一

教 育 長 佐 々 木 成 克

外 職 員 一 同

年頭のごあいさつ

議長 高田 春吉



町民の皆様、新年あけましておめでとうございます。

希望に満ちた新春を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

町民の皆様には平素より議会運営にご理解とご協力を賜り心から感謝とお礼を申し上げます。

さて、世界は東西両陣営の冷戦対立の時代から協調の時代へ急速かつ大胆に変貌しつつある中でイラクのクエート侵攻に端を発した世界情勢は波乱を極めつつ流動的であり

ます。日本経済はこれらに大きく左右され平和経済に陰りが出初め、国の諸情勢によって国の政策、特に財政政策に大きく関係することから地方自治

体への影響は避けられないと考えます。また、政局は衆参与野党のねじれ現象の勢力分野の中、多事多難が予想されます。これら時流を的確に見極めながら我が鹿部町が二十一世紀に向けての新しい町づくりを進めて行かなければなりません。

町議会は今年も言論の府としての立場を堅持し、町民の皆様方からの付託されました責任の重大なることを痛感し、町行政が積極的に推進されるべく議会運営を円滑に図られるよう全力を傾注する決意であり、また、今年には議員の任期も折り返しに入り、各常任委員会の改選期に当たり、心を新たに精進して参る所存であります。

一昨年より展開しております旧鹿部飛行場用地に関連する大型プロジェクトの推進を更に前進させ、形として表れる町の活性化を確固たるものにしなければなりません。また、リゾート地域として注目を浴びている当町の観光・産業資源の開発の活発化が予想されますが、これらは町民の皆様への幸せにつながるよう位置付け推進しなければなりません。

ません。

更には、当町の基幹産業である漁業振興の推進を始めとして生活環境整備、福祉の向上、そして昨年、町民の皆様方の永年の要望でありました温泉活用の鹿部コミュニティプール、緑豊かな鹿部公園が完成し、これらの利用を生活の中に取り入れ、ゆとりと潤いの定着化を求める等、教育文化の向上等、いささかも後退することのないよう推進して参る所存でございますので、町民の皆様の一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成三年の新春を迎えるにあたりまして町民皆様のご多幸とご健勝を祈念し、新年のごあいさつといたします。

鹿部町議会

議長 高田 春吉  
副議長 西谷 正昭

総務  
常任委員長 川村 太一  
同委員長 佐藤 頼幸  
同委員長 船橋 竹治郎  
同委員 佐藤 佑二

民生文教

常任委員長 渡部 良次  
同委員長 川口 常行

同委員 西谷 正昭  
同委員 川原 勝美  
同委員 千葉 光義  
産業建設  
常任委員長 平 沢 浩  
同委員長 吉 田 武雄  
同委員 吉 田 武夫  
同委員 竹ヶ原 公勝  
同委員 野田 重毅  
同委員 野田 重毅  
議会事務局 議 員 一 同

鹿部町民憲章

- 1. 話し合いのある明るい家庭をつくりましょう
- 1. 元気にはたらき楽しい職場にしましょう
- 1. きまりをまもり互いの立場を尊重しましょう
- 1. スポーツに親しみたくましい心とからだをきたえましょう
- 1. 自然を愛し郷土の文化を育てましょう

シートベルト着用推進に関する決議

悲惨な交通事故を防止し、安全で快適な交通社会を確保することは、全町民の願いである。しかるに近年、交通事故は多発の傾向にあり、誠に憂慮すべき状況である。このような悲惨な交通事故から尊い町民の生命を守ることこそ当面する重要課題である。乗員の人命保護等に極めて有効なシートベルト着用推進を、全町民とともに強力に展開することを決議する。

昭和59年9月26日

鹿部町議会

### 年頭にあたって

北海道知事

横路 孝 弘



道民の皆さん、明けましておめでとうございます。

この新しい年が皆さんにとって、また、北海道にとって、より良い年でありませうよう心から祈っております。

最近の北海道経済はおおむね順調で、企業進出も年を追うごとに増加しており、北の新しい技術や製品の開発も意欲的に進められております。また、地域づくりの面でも、

チャレンジ精神おうせいな運動や取り組みが生まれてきておりますし、福祉や文化の分野でも、地域に視点をあてた仕組みづくりや、ボランティア活動などが展開されております。新しい北海道の担い手が道内各地のさまざまな分野で着実に育ち、北海道の未来

を形づくるエネルギーとなりつつあることを実感しております。

いま、日本では、産業的な成功を背景に、物質的な豊かさを実現することができました。しかし一方では、地球環境の問題、余暇社会にふさわしい自由時間のあり方、地域における人と人とのつながりなど、新たな課題が提起されております。これまでの効率性や物質的な豊かさを追求してきた産業活動や生活様式のあり方を見直し、「本当の豊かさとは何か」ということが問われております。いま求められているのは、環境にやさしい産業や経済であり、人にやさしい社会や文化であると思えます。北海道こそこのような時代の要請にこたえることができる地域であると思えます。

北海道には豊かな自然とゆとりの空間があり、日本の他の地域とは異なる歴史や文化があります。道内各地にみられる産業や地域おこしの活動の芽を大切に育てながら、北海道のリズムを大切にし、北海道ならではの生活スタイルを確立していかなければなら

ないと思っております。

国際社会の変化のスピードは、予想を超えるものがあります。

昨年六月のソ連訪問や、九月の北方圏会議への出席といった機会を通じて、世界情勢が大きく変わり、新しい国際秩序が模索されていることを、そして北海道の果たす国際的役割がますます大きくなってきていることを肌で感じました。こうした大きな潮流のなかで、世界のなかの北海道という立場をしっかりと認識し、地域に根ざした国際化の推進に努めていかなければならぬと思っております。

今年の三月には、札幌ユニバーシアード冬季大会が開催されます。北海道の国際化は、世界の人々と友情の輪を広げることにより、さらに進展するものと思えます。

世界が大きく変わろうとしているいま、この北の大地・北海道が時代のリードオフマンとして活躍する絶好の機会です。夢を形に変えることができる新しい北海道を築くため、しっかりと足もとを見つめながら、みんなで力を合わせ、がんばろうではありませんか。

### 年頭のごあいさつ

渡島支庁長

椿 三佐 幹



明けましておめでとうございます。

希望に満ちた平成三年の新春を皆様とともに迎えることができましたことを、心からお喜び申し上げます。

一昨年の四月に着任して以来、多くの方々温かいご指導とご協力をいただきながら、青函新時代にふさわしい地域づくりを進めてまいりました。が、新春を迎え、更に渡島地域の飛躍・発展のために全力を尽くす決意を新たにしております。

ご承知のとおり、渡島地域は青函トンネルの開通を契機に、めざましい発展を続けており、道内でも今後の発展の可能性が高い地域として注目されています。

青函トンネル、そして、函館・青森間を約一時間四十分で結ぶジェットフォイルの就航など、交通アクセスの飛躍的な整備・拡充は、観光客の大幅な入り込み増が期待できるばかりでなく、農産物や水産物など、管内の優れた特産品の市場開拓にも大きな弾みがつくものと思えます。

また、青函トンネルにより本州と陸続きになったことで、今、青函圏では経済・文化・スポーツ・観光・情報通信などあらゆる分野での交流が非常に活発化しており、まさに、札幌・仙台に次ぐ北日本第三の経済・文化圏の形成を目指した「青函インターブロック交流圏計画」が着実に具体化されています。

このように、地域が新しい時代に向って、さらなる飛躍への大きな第一歩を踏み出した今こそ、夢をひとつひとつ形に変えていくための課題解決に全力を尽くし、この渡島地域を更にすばらしい郷土につくり上げ、次代に引き継いでいくことが私たちに課せられた使命だと思っております。

当面は、地場産業の高度技術化を目指す「テクノポリス



函館」の建設推進を始め、海と歴史と国際性を活かした「みなみ北海道観光プラン」、そして、外国との交流の歴史や民間レベルの国際交流活動の蓄積を活かした「道南圏国際化プロジェクト」などの地域プロジェクトを積極的に推進していく必要があります。

また、管内の基幹産業である農林水産業については、増養殖への積極的な取り組みにより資源管理型漁業を目指すとともに、道南スギの有効活用や、消費者のニーズに応えることのできる農産物づくりを進めるなど、競走力の高いたくましい産業に育てていきたいと考えています。

特に、米づくりについては、関係者の努力が実り、道南の気候に適した米として開発された新品種「渡島224号」は、「きらら397」に優るとも劣らない品種として内外から高い評価を得ているなど、これからの道産米のホープとして大きな期待が寄せられています。

私も行政を担う者としては、豊かな地域社会を創造していくため、あらゆる課題に勇気をもって果敢に挑戦してまいります。しかし、それらに具体的実践していくためには、やはり、地域に住む人々の英知と熱意をどのように結合させていくかが大切だと思います。

幸い、この渡島には、雄大な自然や歴史と文化、そして豊かで新鮮な農・水産物などの資源に恵まれていることに加え、各地域では一村一品運動や魅力あるイベントの創出などに見られるように、地域の一人ひとりが町づくりに参画しておられることを、たいへんに心強く思っております。皆さんの創意と工夫、そして無限のエネルギーとバイタリティーで、この渡島地域が更に飛躍、発展していくものと確信しております。

皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、この一年が皆様にとって、また、渡島にとってすばらしい年になることを祈念し、新年のごあいさつといたします。

# 平成 三年は未年です。

羊は、「おとなしい」「柔順」「群れになる」などのイメージがありますが、何よりもわたしたちが実感できるのは、ウールのセーターや皮製品の肌ざわりと温かさです。

羊は紀元前六千ごろ、家畜化されたといわれています。馬が家畜化されたのが、紀元前三千〜四千年ごろですから、羊と人間の付き合いは、かなり長いことになります。

**日本** には、羊にまつわる諺があまり多くありません。

すぐに思いつくところでは、「羊の皮を着た狼」「羊頭狗肉」くらいのもです。曲がりくねった山道を「羊腸」と表現しますが、これはちよつと古臭い感じがしますね。

では、なぜ羊に関する諺が少ないのでしょうか。西暦五九

九年、推古天皇の時代に、百濟から二頭の羊が贈られたと、日本書紀に記されています。しかし、羊は乾燥した風土が好きなので、日本の気候に合

**明治** の初期、政府は緬羊の飼育振興を試みましたが失敗。その後、軍服などの製造のために、羊の飼育が奨励されました。また、戦後は農家の副業として、多いときは百万頭も飼育されました。しかし、現在の飼育頭数は、北海道や東北などを中心に、三万七千頭くらいに過ぎません。最近では、全国各地で観光牧場などの整備が進み、子供たちが羊を見る機会が増えました。

羊毛は、天然繊維の人気上昇で、日本での需要が増えています。外国産が中心で、オーストラリアやニュージーランドなどから輸入しています。



わなかつたのでしよう。あまり繁殖しなかつたようです。そのため、欧米のように諺が多くないのだろうといわれています。

さて、「一年の計は元旦にあり」といいます。今年の目標を決め、「迷える羊」にならないよう、スタートを切りた

羊は「おとなしい」「柔順」「群れになる」などのイメージがありますが、何よりもわたしたちが実感できるのは、ウールのセーターや皮製品の肌ざわりと温かさです。

羊は「おとなしい」「柔順」「群れになる」などのイメージがありますが、何よりもわたしたちが実感できるのは、ウールのセーターや皮製品の肌ざわりと温かさです。



私達5年1組30名は  
今年1年をしっかりと暮らし  
立派な6年生になれるよう  
がんばります!

5年1組です

明戸弘光 || 国語の朗読と漢字を特になんぼる。

荒町厚也 || 身の回りをきちんとする。

安藤公一 || 水泳の練習をがんばる。

飯田 覚 || 国語の本読みをすらすら読めるようになる。

伊藤 慎 || 小学校生活で6年生が最後なのでがんばる。

釜沢賢一 || 算数の計算をすぐできるように、がんばる。

工藤知大 || 野球がもつとうまくなりた。

久保田正人 || 算数の計算を、がんばる。

佐藤陽一 || 算数の計算を、がんばる。

菅又稔文 || 足かけ回りができるようにになりたい。

杉目裕史 || 水泳をがんばる。

高橋裕輔 || 発表力を高めたい。

滝野吉郎 || 算数の予習や復習を進んでやる。

原田積拓 || 高とびを練習してがんばる。

吉田和幸 || 算数の計算を早くしたい。

松川蒼記 || 勉強の算数の計算を早くやる。

柳沢 誠 || 進んで発表するよ

阿部聖子 || 進んで手をあげるようにがんばる。

浦 一美 || 気持ちが見れるような本読みにする。

小山朋子 || 算数を得意になりたい。

坂井真美 || もつともつと発言をガンバル。

酒谷早苗 || 算数の勉強をいっしょうけんめいがんばる。

佐々木加奈子 || 算数の文章問題を解けるようにする。

杉本亜矢子 || いろいろな歴史を覚えた。

高橋昌子 || むずかしくても予習は、かかさない。

中村美喜子 || りっぱな6年生になりたい。

古城鈴佳 || 本読みをしようになりたい。

本田真由子 || 国語の本読みをもう少しがんばる。

松本香織 || 予習、復習をきちんとやるようにする。

松本美和子 || 今年は、算数の計算などをがんばりたい。



私達5年2組30名は  
 しっかりした6年生を目指し  
 がんばるぞ

5年2組です

板坂 篤 || 特に社会がにがてなのでがんばりたい。

逢坂拓嗣 || 算数の勉強をがんばる。

工藤秀弥 || 国語の漢字をかけるようにがんばる。

工藤行久 || 国語と算数をがんばる。

齊藤公康 || 勉強では算数をとくにがんばる。

正村慎悟 || 全科目をがんばる。高本 猛 || 算数のよ習ふく習をがんばる。

種崎 学 || 算数と国語をがんばりたいです。

千葉光人 || 全教科百点まん点とりたいです。

長根山利彦 || 算数や国語のよ習ふく習をがんばる。

成田健也 || 六年生になったらきれいな字を書くようにがんばる。

原田典招 || にがてな勉強(国語)をがんばる。

原田匡修 || 全教科をがんばる。見上貴宏 || 全教科をがんばる。

特に算数をがんばりたい。盛田 智 || ぼくは、野球と算

数をがんばる。吉田 俊 || ぼくは、算数を

がんばりたい。

青山朋子 || 国語の本読みに、力をいれたい。

川村百苗 || 算数が、とくにいなるようにがんばりたい。

木元光江 || 六年生らしく漢字をすらすらおぼえたい。

佐藤早紀子 || 算数の計算をがんばる!

鈴木夏子 || 勉強(国語・算数)の成績をあげたい。

高橋さち || 私は算数のテストで百点をとるようにがんばりたい。

高本亜矢子 || たくさん足をきたえて、体力をつけたい。

田村美沙子 || 健康に気をつけて、いろいろなことをがんばりたい。

中村扶美子 || 国語のかんじをたくさんおぼえる。

中村匡利 || 私は、算数の問題をすらすらとけるようにがんばる!

樋口有樹 || 算数の図形分野に力をいれたい。

本橋亜美 || 算数と理科の勉強をがんばりたい。

吉 智子 || 算数と社会が、得意になるようにがんばりたい。

和野千景 || いろいろな科目を一生けんめい

にがんばりたいです。



私達5年3組30名は  
最高学年としてこの1年間  
ガンパります!

5年3組です

荒町政仁||漢字を、いっしょ

うけんめいがんぱりたい。

飯田 亨||スキーをスイスイ

すべりたい。

伊藤奨悟||スキーで一回もこ

ろばないで、すべりたい。

大友隆智||国語の漢字を覚え

れるようになりたい。

川村亮平||スキーでジュニア

の一級をとりた。

久保田良一||25メートルを23

秒以内で泳ぎたい。

小渡良司||今年は漢字をしっ

かりおぼえたい。

佐藤 亘||今年は、スキーを

スイスイとすべりたい。

佐藤良尚||右の手も使えるよ

うにがんばる。

高本正樹||今年は野球でホ

ムランを打ちたい。

田中 源||ぼくは、野球でホ

ムランを打ちたい。

原田充修||柔道で四級をとり

たい。

平野晃生||スキーと野球と勉

強もがんばる。

松浦 寿||野球で全道大会を

めざしてがんばりたい。

松川康治||今年は国語の漢字

をがんばりたい。

松川宏明||漢字がにがてなの

で漢字をがんばる。

森池弘悦||今年は、とび箱や

鉄棒をがんばる。

柳沢応樹||勉強と野球を得意

にした。

川口いずみ||そろばんで、三

級をうかるようにしたい。

椎野亜紀子||そろばんで、次

の級へ進みたい。

田口絵美||本読みをうまく読

めるようにがんばりたい。

田口亜沙美||習字が一級にな

るようにがんばる。

種崎由香||私は陸上で全道大

会へ行くぞ!!

中村美也子||算数を努力して

がんばりたい。

中村美由喜||中学生までに、

珠算の一級をとりたい。

二本柳幸子||算数を、得意に

したい。

根本絃子||年内に、ピアノバ

イエルを終了させたい。

平野絢子||習字で、準三段を

とりたい。

村林由香||そろばんで三級を

とるようにがんばる。

吉田かおり||字をきれいに書

くようにがんばりたい。

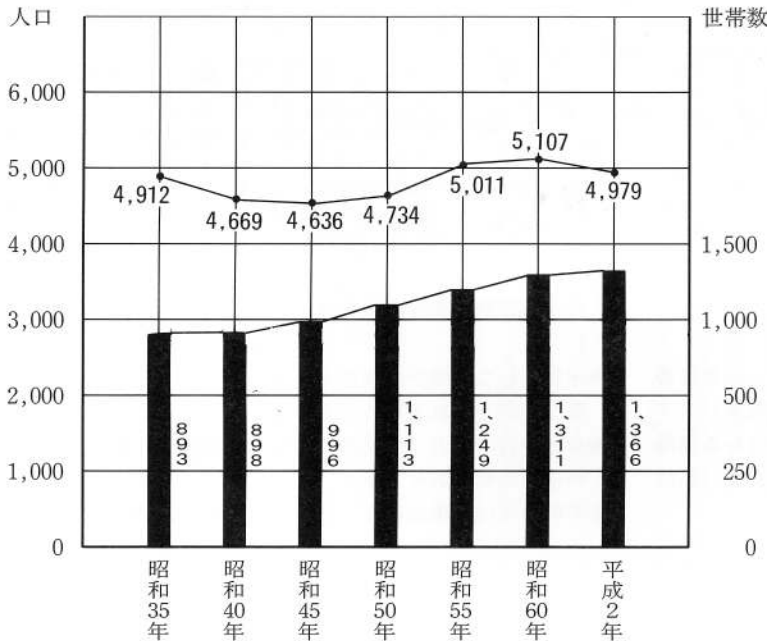


# しかべ町の人口は4,979人

## 国勢調査の概数まとまる

昨年10月1日に行った第15回国勢調査の鹿部町の概数がまとまりましたのでお知らせします。なお、この数値は後日総務庁統計局から公表される結果と異なる場合もあります。

### 昭和の後半と平成にかけての人口と世帯数の推移



### 人口は2.5%の減少

5,107人→4,979人

### 世帯数は4.2%の増加

1,311世帯→1,366世帯

区分	男	女	計
60年	2,559人	2,548人	5,107人
2年	2,469人	2,510人	4,979人
増減	△ 90人	△ 38人	△128人

### 鹿部も核家族化傾向

昭和60年調査 3.90人

平成2年調査 3.64人

	人口・昭和60年 (人)			人口・平成2年 (人)			総数 増減
	総数	男	女	総数	男	女	
大岩	322	164	158	284	142	142	△38
鹿部	1,376	692	684	1,322	644	678	△54
宮浜	2,130	1,051	1,079	2,087	1,036	1,051	△43
本別	1,271	645	626	1,282	640	642	11
駒見	8	7	1	4	4	0	△ 4
計	5,107	2,559	2,548	4,979	2,466	2,513	△128

	総数	大岩	鹿部	宮浜	本別	駒見
昭和60年世帯	1,311	70	343	603	288	7
平成2年世帯	1,366	71	360	620	311	4
増減	55	1	17	17	23	△ 3

**人口は減・世帯数は増**

鹿部町の人口は前回(昭和60年)の調査に比べ、百二十八人の減となりました。減少した理由は、核家族化による出生率低下、高校生等若者の働ける職場が増えないことや、単身赴任者が増えたことなどが考えられます。

一方、世帯数は五十五世帯の増加となりました。世帯数が人口と反比例して増えた理由

由は、分家等による世帯分散が考えられます。

地区別人口では本別が十一人の増加となりましたが、その他の地区は全て減となりました。

世帯数は大岩・駒見地区を除き、定住ゾーンが国道の山側や道々沿いに広がっております。

# 平成2年分所得の申告日程決まる

——今年も各地域で……忘れずに申告を——

次の日程で平成2年分(1月~12月)所得の確定申告を行います。  
役場からは日時、場所を指定し通知いたしますが、都合の悪い方は申告期間中に都合のよい会場で申告して下さい。

月 日	時 間	場 所	月 日	時 間	場 所
2月12日(火)	9時 ~ 12時	大岩生活改善センター	2月15日(金)	9時 ~ 16時	役場大会議室
2月12日(火)	13時 ~ 16時	シシベ生活館	2月16日(土)	9時 ~ 16時	本別会館
2月13日(水)	9時 ~ 16時	鹿部会館	2月18日(月)	9時 ~ 12時	本別会館
2月14日(木)	9時 ~ 16時	役場大会議室	2月18日(月)	13時 ~ 15時	出来潤会館

◎持参するもの

1. 印鑑
2. 2年中に支払った生命保険の領収書
3. 医療費控除を受ける場合は、2年中に支払った領収書
4. 出稼ぎした方は、給与支払明細書(源泉徴収票)
5. 営業している方は、仕入れ、売上経費等の分かる書類
6. 漁業の白色申告者は、収支計算書を添付する事(添付されなければ受付いたしません)

7. 住宅取得控除を受ける方はその書類(別掲参照して下さい)
- ※申告をしない場合は諸控除を受けられないと同時に法に基づき罰せられますので必ず申告して下さい。  
※青色申告者の方、事業所等で年末調整をされた方は確定申告の必要がありません。  
※不明の点は役場税務課(☎7-2111)へお尋ね下さい。



**医療費を多く支払った方**  
あなたや、家族が病気、ケガで支払った医療費(通

がります)が、確定申告の際源泉徴収票を持参され

ますと諸控除の適用によつて全額又は一部が戻ることがあります。

**昨年出稼ぎ、又はアルバイト等で、雇用先から賃金を受ける際に所得税を差引**

**かれています方は、確定申告の際源泉徴収票を持参され**

**ますと諸控除の適用によつて全額又は一部が戻ることがあります。**

**昨年(平成2年中)に所得税を納めた方で次に該当する方は、3月15日までに役場、又は税務署に於て還付請求の手続きをして下さい。納めすぎた税金が戻ります。**

**出稼先等で所得税を納めた方は、昨年出稼ぎ、又はアルバイト等で、雇用先から賃金を受ける際に所得税を差引かれています方は、確定申告の際源泉徴収票を持参され**

**ますと諸控除の適用によつて全額又は一部が戻ることがあります。**

**昨年(平成2年中)に所得税を納めた方で次に該当する方は、3月15日までに役場、又は税務署に於て還付請求の手続きをして下さい。納めすぎた税金が戻ります。**

出稼先等で所得税を納められた方  
納めすぎた税金が戻ります!  
確定申告で還付手続を

院費含む)が昨年一年間で十万円を超える場合は、二百万円を限度として、医療費控除の適用を受けることができます。ただし保険金や高額医療費等で補てんされた部分の金額は除かれます。

※医療費控除に必要な書類  
(1)医療費を支払った領収書  
(2)給与所得の源泉徴収票(事業所得者は必要なし)  
家を新築、購入又は中古住宅を購入した方

自分で住むための住宅を新築したり、新、中古住宅を買ったりしたときは、床面積に応じた住宅取得控除が受けられます。

○住宅取得控除を受けるための条件

- (1)その年の合計所得が一千万円以下であること
- (2)床面積が40㎡以上の家屋

(参考) 住宅を居住の用に供した日の区分に応じた住宅取得等特別控除及び住宅取得特別控除の控除額、控除期間及び所得要件は、次のとおりです。

住宅を居住の用に供した日	各 年 分 の 控 除 額	控除期間	所得要件
昭和62年1月1日から 昭和62年12月31日まで	$\left( \begin{array}{l} \text{民間金融機 公的機関等か} \\ \text{関等からの らの借入金等} \\ \text{借入金等の} + \frac{\text{の年末残高}}{2} \end{array} \right) \times 1\%$ (最高20万円)	5年	1,000万円 以下
昭和63年1月1日から 平成元年12月31日まで	$\left( \text{住宅の取得等のための借入} \right) \times 1\%$ (最高20万円)		
平成2年1月1日から 平成3年12月31日まで		6年	3,000万円 以下

(注) 1 借入金等の年末残高が2,000万円を超える場合には、2,000万円が限度となります。

2 上記の算式により計算した金額に100円未満の端数があるときはこれを切り捨てます。

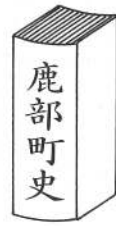
平成2年中に土地や家屋などの譲渡のあった方や、白色の申告をしている方で、収入額が予想以上にあった方は、函館税務署の申告相談をご利用下さい。

相談日時 2月20日 9時～4時まで  
場 所 役場大会議室



函館税務署では、申告者(納税者)の便宜を図るため、各町村へ出向いて確定申告の相談を受けております。今年も次の日程で行いますのでご利用下さい。

※なお該当予定者へは税務署より通知される予定です。



### 昆布漁業の歴史

北海の特産昆布は、鮭・鯿とともに蝦夷三品といわれま

した。  
延暦一六年(七九七)に成る統日本紀に「昆布貢献」。建武年間(一一三四)の庭訓往来には「宇賀昆布・夷鮭」



として産地産物が紹介されています。

#### 郷土の開基

むかしアイヌの国だった蝦夷地の頃、鹿部もアイヌの村でした。

一七世紀には南部下北の「大洞近傍の漁者が出稼」にきて昆布漁が終わると居村へ帰っていききました。

「元和元年(二六一五)四月司馬宇兵衛」が来住し、ついで移住者を募って一村を開いたと明治一五年一月二六日の函館新聞に記されています。

#### 松前藩の古文書

によれば、元和二一年に藩士新井田知貞が六ヶ場所のヲサツベ場所(恵山から松屋岬まで)の知行を拝領しました。

寛永一七年(一六四〇)の駒ヶ岳噴火の大津波で、「昆布取舟百余艘破壊」「商船ノ者共、蝦夷人共、人数七百餘溺死しました。一七世紀には鹿部の沿海で大々的な昆布漁がおこな

われていました。

#### 祈祷神楽

延宝三年(一六七四) 松前

藩主は亀田八幡宮に昆布商売の豊漁と安泰を祈祷する神楽を永久仰付になりました。初穂料は漁者一軒につき昆布一駄づつ納めました。

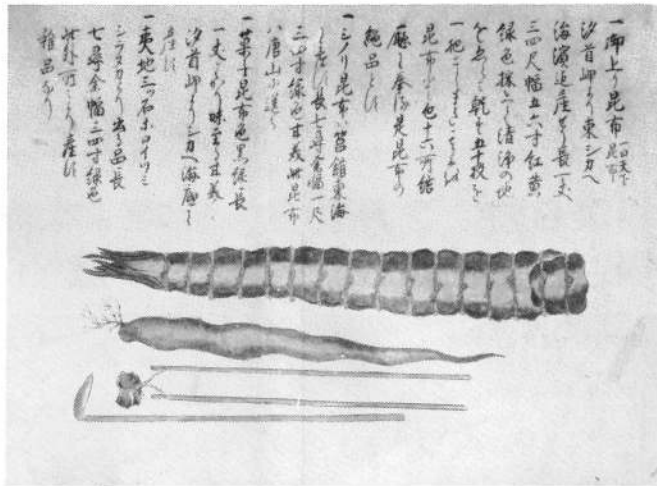
#### 鎌おろし

寛政三年(一七九一) 来

一七九一) 来村した昔江眞澄は「えぞのてぶりに」「和人はこの村を鹿部とだけいう。どこもこの辺りは昆布がよいのだろう。略(一) 昆布はこの浦にまさる佳い昆布は他にないといわれる。」「この年はヤマセの風が吹き続いて出稼の船共が遅れて浦々に着いたので今年の鎌おろしは水無月(旧歴六月)の二日と定める」巡文がきたと記しています。

#### 天下昆布

幕吏村上島之允(秦樟丸)が文化年間(一八〇四頃)に



#### 鹿部昆布の生産高

南部藩図書「東蝦夷地海岸図台帳」によれば

嘉永六年(一八五三)

家数二八軒 船三三艘

元揃昆布 三、五〇〇把(注1)

駄昆布 七五駄

汐干昆布 七八〇駄

明治一六年「戸口及物品調」

戸数七〇戸

元揃昆布 三六九石六升

明治四二年「鹿部漁業組合」

戸数四〇五戸

元揃昆布 一一、八五一把

大正五年「同」

戸数四四六戸

元揃昆布 四三、六一三把

昭和三年「同」

戸数五二四戸

元揃昆布 七一、五〇〇把

汐干昆布 二六五丸

ガモメ 一九一把

折昆布 九一把

島切昆布 一、五九七把

手繰昆布 九四七把

注1 一把は二貫(七・五五)

一駄は四把(八貫)

一石は五駄(四〇貫)

注2 明治15函館新聞による

司馬宇兵衛を先駆とする

記事は取材源が不明で史実とする決め手を欠く。

描いた蝦夷島奇観(写真)に「昆布は東蝦夷地に産す西蝦夷地に絶てなし六月土用より八月十五日まで採れり」  
「御上り昆布、一曰天下昆布 汐首崎より東シカベ海浜迄産せり」  
長老丈三四尺 幅五六寸 紅黄緑色  
採拵て清浄の地を選び乾す五十枚を巻把としました其上を昆布にて包み十六結(ユイ) 廳に奉る  
是昆布の絶品とす」